

スウェーデン

Kingdom of Sweden

	2006年	2007年	2008年
①人口：926万人（2008年12月末）			
②面積：44万1,370km ²			
③1人当たりGDP：5万2,790米ドル （2008年）			
④実質GDP成長率（%）	4.2	2.6	△0.2
⑤貿易収支（スウェーデン・クローナ）	1,521億7,897万	1,167億3,582万	1,180億5,225万
⑥経常収支（スウェーデン・クローナ）	2,456億9,100万	2,639億5,658万	2,457億1,162万
⑦外貨準備高（米ドル）	247億7,800万	270億4,400万	258億9,640万
⑧為替レート（1米ドルにつき、 スウェーデン・クローナ、期中平均）	7.37825	6.75877	6.5911

〔注〕⑤：国際収支ベース
〔出所〕①②④～⑥：スウェーデン中央統計局，③⑦⑧：IMF

2008年のスウェーデン経済は、秋以降の世界的な経済危機の影響を受けて急速に悪化、実質GDP成長率はマイナス0.2%となった。貿易は上半期が好調だったため、輸出入ともに前年を上回った。直接投資は、対内投資が2007年に落ち込んだ反動で大きな伸びを示し、対外投資でもエネルギー、IT、医療分野で積極的な動きがみられた。対日輸出は不振、対日輸入は前年並だったことから対日貿易赤字が拡大した。

世界同時不況により経済が急速に悪化

2008年のスウェーデン経済は秋以降に急激に悪化し、第4四半期の実質GDP成長率は前年同期比マイナス4.8%と落ち込み、通年でも0.2%のマイナス成長となった。個人消費が前年比0.2%減、総固定資本形成が0.3%減と内需が急速に冷え込んだことが主因だが、景気の牽引役である輸出が1.8%増にとどまった影響も大きい。スウェーデンは90年代初頭に金融・経済危機を経験したことから、金融機関に対する国の監督および企業自身のチェック機能が働き、金融危機による損害はほとんどなかった。しかし急激な世界同時不況で輸出が第4四半期に急激に落ち込んだことに加え、基幹産業である自動車産業の不振などによるリストラ急増、雇用不安の高まりから内需が急速に衰えた。政府による緊急経済対策では雇用の安定、企業救済を優先している。

財務省が2009年4月に発表した経済見通しでも2009年の実質GDP成長率はマイナス4.2%と非常に厳しく、失業率も2008年の6.1%から8.9%に上昇するとみている。

貿易収支の黒字幅は縮小

2008年の貿易（通関ベース）は、輸出が前年比4.8%増の1兆1,945億5,900万スウェーデン・クローナ（以下、Skr）、輸入が5.7%増の1兆889億9,000万Skrであった。85年以降黒字で推移している貿易収支は1,055億6,900万Skrとなり、前年の1,099億3,200万Skrから縮小した。第3四半期までは輸出入とも増加傾向にあったが、第4四半期に入ってそれぞれ前年同期比7.2%減、5.4%減と急減した。輸出がそれでも好調だった前年を上回ったのは年後半にクローナが急落したことによる。

輸出を品目別にみると、全体の42.0%を占める機械・輸送用機器が前年比0.1%減とほぼ前年並みだった。一般

表1 スウェーデンの主要品目別輸出入〈通関ベース〉

(単位：100万Skr、%)

	輸 出 (FOB)				輸 入 (CIF)			
	2007年	2008年			2007年	2008年		
	金 額	金 額	構成比	伸び率	金 額	金 額	構成比	伸び率
食品、飲料、たばこ	39,726	45,567	3.8	14.7	73,042	82,136	7.5	12.5
燃料以外の原材料	70,703	71,471	6.0	1.1	37,311	35,359	3.2	△5.2
鉱物性燃料・鉱石	62,877	94,104	7.9	49.7	114,560	158,522	14.6	38.4
原油・石油製品	57,379	85,566	7.2	49.1	98,963	136,332	12.5	37.8
化学製品	126,014	130,624	10.9	3.7	110,310	122,026	11.2	10.6
医薬品	59,294	59,766	5.0	0.8	24,768	27,609	2.5	11.5
原料別製品	237,760	241,475	20.2	1.6	171,879	165,535	15.2	△3.7
機械・輸送用機器	501,652	501,307	42.0	△0.1	399,854	395,119	36.3	△1.2
道路輸送用機器	154,274	143,004	12.0	△7.3	112,380	103,400	9.5	△8.0
雑製品	100,098	108,398	9.1	8.3	119,424	125,757	11.5	5.3
合 計	1,140,032	1,194,559	100.0	4.8	1,030,100	1,088,990	100.0	5.7

〔出所〕表2～4、6とも、スウェーデン中央統計局。

表2 スウェーデンの主要国・地域別輸出入 <通関ベース>

(単位：100万Skr, %)

	輸 出 (FOB)				輸 入 (CIF)			
	2007年		2008年		2007年		2008年	
	金 額	金 額	構成比	伸び率	金 額	金 額	構成比	伸び率
E U 27	693,577	713,593	59.7	2.9	738,860	759,213	69.7	2.8
ユ ー ロ 圏	460,441	473,064	39.6	2.7	500,761	507,690	46.6	1.4
ド イ ツ	119,109	123,900	10.4	4.0	188,595	190,915	17.5	1.2
フ ィ ン ラ ン ド	71,310	75,825	6.3	6.3	63,949	62,389	5.7	△2.4
オ ラ ン ダ	57,565	60,887	5.1	5.8	62,534	64,684	5.9	3.4
フ ラ ン ス	57,008	58,392	4.9	2.4	50,795	54,561	5.0	7.4
ベ ル ギ ー	52,269	52,474	4.4	0.4	42,858	42,433	3.9	△1.0
イ タ リ ア	36,015	37,211	3.1	3.3	36,240	37,483	3.4	3.4
非 ユ ー ロ 圏	233,135	240,529	20.1	3.2	238,099	251,523	23.1	5.6
デ ン マ ー ク	84,113	88,323	7.4	5.0	94,092	102,680	9.4	9.1
英 国	81,576	87,546	7.3	7.3	74,797	68,773	6.3	△8.1
ポ ー ラ ン ド	27,839	29,933	2.5	7.5	29,744	35,914	3.3	20.7
ノ ル ウ ェ ー	107,269	113,477	9.5	5.8	87,974	97,157	8.9	10.4
ロ シ ア	22,702	28,901	2.4	27.3	29,843	44,892	4.1	50.4
米 国	86,509	78,656	6.6	△9.1	32,040	33,685	3.1	5.1
中 国	22,190	25,929	2.2	16.8	35,690	36,803	3.4	3.1
日 本	13,951	13,175	1.1	△5.6	17,704	17,839	1.6	0.8
合 計	1,140,032	1,194,559	100.0	4.8	1,030,100	1,088,990	100.0	5.7

機械 (5.0%増)、電気・電子機器 (6.6%増)、特殊産業用機械 (6.4%増) などが好調だった一方で、最大の輸出品目である道路輸送用機器 (構成比12.0%) が7.3%減と減少したためだ。特に乗用車の落ち込みは深刻で20.8%減と落ち込んだ。紙・パルプは欧州や先進国市場の需要が頭打ちになっているにもかかわらず、クローナ安により価格競争力が増し、6.8%増と順調な伸びを示した。スウェーデンは産油国ではないが、デンマークやノルウェー産原油の精製基地となっていることから原油価格の高騰により、原油・石油製品が49.1%増の伸びを示した。北欧諸国は近年、共同で食品と食文化をPRしつつ輸出拡大を目指しているが、ドイツや中・東欧諸国などに魚介類、砂糖、シリアルなどの販路を着実に拡大し、食品・飲料・たばこが14.7%増の伸びを示した。

輸出を国・地域別にみると、最大の輸出相手国はドイツで前年比4.0%増となり、全体の10.4%を占めた。これに続くのがノルウェーとデンマークで、それぞれ5.8%増 (構成比9.5%)、5.0%増 (7.4%) と、いずれも堅調な伸びを示した。ドイツ向けの最大品目は紙・パルプで、鉄・鉄鋼、道路輸送用機器と続く。2008年は原油・石油製品が前年の2倍以上の伸びとなったほか、電気・電子機器も93.9%増という大幅な伸びを示した。ノルウェー、デンマーク向けも原油・石油製品が大幅な伸びを示した。デンマーク向けはこのほか農業機械 (36.8%増)、配電機器 (32.4%増) など特殊産業用機械も好調だった。

EU27はスウェーデンにとって最も重要な市場で全体の6割を占めているが、伸び率は2.9%増だった。EU域外では、ロシア向けが道路輸送用機器、通信・録音機器

などを中心に27.3%増という大幅な伸びを示した。道路輸送用機器の中では、トラック・バスの比率が高く輸出全体の9.4%を占めている。中国はアジア最大の輸出先となっており、一般機械、通信・録音機器、道路輸送用車両などを中心に16.8%増の伸びを示した。

輸入を品目別にみると、全体の36.3%を占める機械・輸送用機器が1.2%減となった。その主因は、最大品目である道路輸送用機器 (構成比9.5%) が8.0%減と落ち込んだことにある。原油価格の高騰により原油・石油製品を含む鉱物性燃料・鉱石は38.4%増と大幅に増加し、全体の14.6%を占めた。このほか、化学品10.6%増 (11.2%) など順調な伸びを示した。

国・地域別の輸入ではEU27が2.8%増で全体の69.7%を占めた。最大の輸入相手国はドイツで全体の17.5%を占めているが1.2%増と伸び悩んだ。ドイツからの輸入品目は多岐にわたるが、最大の品目は19.6%を占める道路輸送用機器で4.7%減と不振だった。デンマーク9.1%増 (構成比9.4%)、ノルウェー10.4%増 (8.9%) がドイツに続くが、両国とも最大品目は原油および石油製品で、それぞれ12.2%増 (30.4%)、26.1%増 (23.9%) と急増したことが輸入増につながった。ロシアも50.4%増と急増したが、同国からの輸入は83.6%が原油および石油製品である。このほか、ポーランドも映像用機器などの機械類を中心に20.7%増 (3.3%) の伸びを示した。

■ 対内直接投資は大幅拡大、対外は微増

2008年のスウェーデンの対内直接投資 (国際収支ベース、ネット、フロー) は、2,664億8,600万Skrで前年比

表3 スウェーデンの国・地域別対内・対外直接投資
 <国際収支ベース、ネット、フロー>

(単位：100万Skr)

	対内直接投資		対外直接投資	
	2007年	2008年	2007年	2008年
E U 27	62,493	202,060	△49,040	70,016
ユーロ圏	67,053	165,779	△64,070	53,692
フランス	9,677	69,742	△1,639	6,606
ドイツ	△1,643	63,456	164	509
ルクセンブルク	26,965	62,971	△6,104	△28,424
ベルギー	15,708	11,253	△31,533	56,094
オランダ	△14,960	3,886	△9,748	△17,176
フィンランド	16,533	△38,656	△16,582	4,581
非ユーロ圏	△4,560	36,281	15,030	16,324
デンマーク	1,336	43,699	17,609	△3,095
ポーランド	△2,195	△1,610	△74	5,869
英国	△3,749	△2,621	△3,276	1,054
スイス	4,150	7,118	1,358	7,046
ロシア	△1,469	△2,653	574	3,420
ノルウェー	19,399	△43,927	△2,596	△11,747
米国	2,049	△35,701	117,107	30,041
中国	△406	△326	839	1,215
日本	301	716	910	△221
合計	149,212	266,486	255,532	265,126

[注] 利益再投資を含む。

78.6%増の大幅な伸びを示した。これは前年に25.8%減の1,492億1,200万Skrと大きく落ち込んだ反動でもあるが、北欧・バルト地域の拠点としての地理的な優位性や、過去10年ほど賃金上昇が緩やかで他の西欧諸国と比べてコスト面で競争力が改善したこと、教育水準の高さなどから質の高い労働力が確保しやすく生産性が高いといった面が見直された結果ともいえる。

国・地域別にみると、対内投資の大半はEU27に集中している。その中でもフランスが最大の投資国となった。2008年最大の投資案件はフランスのベルノが国営の酒類販売会社ヴァイン&スピリト(V&A)を56億2,600万ユーロ(約550億Skr)で買収した事例である。現ラインフェルト政権は国営企業の売却を2006年9月の総選挙で公約としており、V&A売却はその一環だが、金融危機以降の経済状況下では買い手が現れる見込みは薄く、当面大き

な売却計画は事実上休止になるとみられる。このほか2008年の大きな案件としてはデンマークのマースク(海運)によるブローストレーム(同)の買収(約362億Skr)(投資完了は2009年2月)、ドイツのフォルクスワーゲン(自動車)によるスカニア(トラック製造)買収(約200億Skr)などが挙げられる。2008年には前年に引き続きIT分野での投資案件が多くみられ、2月のサン・マイクロシステムズ(米)によるマイスキル(データベース・ソフト等制作)買収がその代表事例といえる。高齢化などを背景に成長が見込まれる医療・介護分野の案件も前年に引き続き数多くみられ、2008年10月の米国のヒルロム(医療サービス)によるリコ(介護用リフト機製造)の買収、フィンランドのキャップマン(投資)によるセデロース(歯科衛生用品製造)買収などがあった。

2008年の対外直接投資額は2,651億2,600万Skrで、前年比47.1%増と大幅な拡大を見せた2007年の2,555億3,200万Skrをさらに上回った。

国・地域別にみると最大の投資相手国はベルギーで、米国、スイス、フランスがそれに続く。2008年の最大の投資案件は国営電力会社ヴァッテンファルによるドイツでの2基の発電所建設であり、ポーランドのエネア(電力)の株18.7%も取得した。同社は今後10年間に北欧、ドイツ、ポーランドなどの地域で1,000億Skr以上の投資を計画している。環境関連への投資も積極的で、同社は英国のアメック・ウィンド(風力発電)、エクリプス・エナジー(同)も買収した。環境関連ではこのほかにも積極的な動きがみられ、JCE(石油開発)は米国フロリダ州に2008年5月に木製ペレット製造工場を設立し、2009年に入ってから新たに2工場を建設した。

新興市場への投資としては、ボルボ・トラックが2008年5月にインドのアイシャーと合弁会社VEコマースナル・ピークルズを設立した。テリアソネラ(通信)もカンボジアとネパールの電話会社を買収したほか、2008年4月にヒルディング・アンダース(ベッド製造)もタイ

表4 スウェーデンの主な対内直接投資案件(2008年)

(単位：100万Skr)

買収企業	買収企業の国籍	被買収企業名	金額	時期
ベルノ・リカール(飲料)	フランス	ヴァイン&スピリト(酒類販売)	55,000	7月
マースク(海運)	デンマーク	ブローストレーム(海運)	36,200	8月(発表)
フォルクスワーゲン(自動車製造)	ドイツ	スカニア(トラック製造)	20,000	6月
ナスダックおよびDIFC(証券取引所)	米国・UAE	OMX(北欧証券取引所)	14,300	2月
サン・マイクロシステムズ(IT)	米国	マイスキル(IT)	7,500	2月
ボツチュ・レクスロス(油圧機器)	ドイツ	ヘグラント・ドライブ(油圧ポンプ)	n.a.	12月
ユーロクリア(国際証券決済機関)	英国	ノルディック・セントラル・セキュリティーズ(国際証券決済機関)	n.a.	10月
IBM(IT)	米国	テレロジック	6,350	4月
キャップマン(投資)	フィンランド	セデロース(歯科衛生用品)	n.a.	7月
ヒルロム(医療サービス)	米国	リコ(介護用リフト機製造)	1,376	10月
ルーフ・ホールディング(国防,宇宙)	スイス	サーブ・スペース	335	9月

[出所] 表5とも各社発表・報道を基にジェトロ作成。

表5 スウェーデンの主な対外直接投資案件（2008年）

買収企業	投資対象国	投資内容・被買収企業名	(単位：100万Sk)	
			金額	時期
ヴァッテンファル（電力）	ドイツ	石炭発電所を2カ所建設中	30,000	-
ノルディックキャピタル（投資）	米国	コンパテック（医療器具）を英領ジャージー島の子会社を通じて買収	30,000	8月
モダンタイムズグループ（ラジオ放送局）	ブルガリア	ノバテレジア（テレビ放送局）	n.a.	7月
ゲティンゲ（医療機器）	米国	ボストン・サイエンティフィック・サージャリーより人工血管事業を買収	5,640	11月
ヴァッテンファル（電力）	ポーランド	エネア（電力）の株式19%取得	4,500	11月
インベスター（投資）	ノルウェー	リンドルフ（ビジネスサービス）の株式50%取得	4,200	6月
テリアソネラ（通信）	カンボジア、ネパール	ネパールのスパイス・ネパールとカンボジアのアプリフォン（ともに電話会社）の経営権取得	3,200	9月
カピオ（治験施設）	スイス	ユニラプス（治験施設）	n.a.	8月
ボルボ・トラック（自動車）	インド	アイシャー（自動車）合弁会社VEコマースナル・ピークルズ社設立。ボルボの出資比率は50%	1,840	8月
ヴァッテンファル（電力）	英国	アメック・ウインド（風力発電）	1,541	10月

に子会社スランバーランドのマットレス製造工場を設立すると発表した。一方、スウェーデン企業は事業の選択と集中の観点から各国に拡散した事業の整理を進めており、エレクトロラックス（白物家電）はイタリアの冷蔵庫工場を閉鎖し、2010年にはサンクトペテルブルク工場を閉鎖し、ロシアの洗濯機事業から撤退する。SCA（紙・パルプ）も英国とアイルランドのダンボール生産事業をサイカ（スペイン）に売却した。

対日貿易の赤字拡大

2008年の日本との貿易は、輸出が前年比5.6%減の131億7,500万Sk、輸入は0.8%増の178億3,900万Skで、貿易赤字は46億6,400万Skに拡大した。

対日輸出を品目別にみると、最大品目はコルク・木材で年後半にかけてのクローナ安を追い風に8.1%増と健闘し、対日輸出の11.4%を占めた。しかし、それに続く通信・録音機器は7.4%減（構成比10.3%）、道路輸送用機器は10.5%減（9.7%）と秋以降の消費低迷の影響などから、大幅な下落となった。一方で前年大きく落ち込んだ医薬品は胃腸薬などの処方せん薬を中心に倍増した。

輸入を品目別にみると最大品目である道路輸送用機器

（構成比29.6%）が12.4%減と落ち込んだ。医薬品の原料となる有機化学品（12.5%）は23.9%増と好調だったが、通信・録音機器（11.3%）も5.6%減と低迷した。秋以降の国内市場の消費低迷と円高の影響があったとみられる。

2008年の日本とスウェーデン間の直接投資（国際収支ベース、ネット、フロー）は日本からスウェーデンへの投資が7億1,600万Sk、スウェーデンから日本への投資が2億2,100万Skの引き揚げ超過となった。

双方向ともに大型案件はないが、日本からの投資では、2008年末には新日鉄傘下の鈴木金属工業によるハルデックス・ガルピタン（ワイヤ製造）買収、ダイキン（暖房器具製造）による販売子会社設立などがあった。

日本への投資では、2008年6月にアノト（IT）が日立マクセルからデジタルペン事業を買収したほか、アイトラッキングシステム（眼球運動追跡・分析装置）開発・製造のトビー・テクノロジーが日本・アジア地区販売法人を2008年5月に東京に設立した。流通では2008年9月と11月にH&M（アパレル）が東京（銀座、原宿）に2店舗を初めて出店した。イケア（家具）も2008年に神戸（ポートアイランド）、埼玉（新三郷）、大阪（鶴浜）に3店舗を開店し、日本での出店は合計5店舗になった。

表6 スウェーデンの対日主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位：100万Sk、%)

	輸 出 (FOB)				輸 入 (CIF)				
	2007年 金額	2008年			2007年 金額	2008年			
		金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
コルク・木材	1,389	1,502	11.4	8.1	道路輸送用機器	6,026	5,278	29.6	△12.4
通信・録音機器	1,468	1,360	10.3	△7.4	有機化学品	1,800	2,230	12.5	23.9
道路輸送用機器	1,429	1,279	9.7	△10.5	通信・録音機器	2,139	2,019	11.3	△5.6
鉄・鉄鋼	1,060	1,093	8.3	3.1	電気・電子機器	1,147	1,267	7.1	10.5
一般機械	1,094	873	6.6	△20.2	一般機械	1,138	1,160	6.5	1.9
精密機械	779	798	6.1	2.4	特殊産業用機械	634	741	4.2	16.9
その他化学品	640	649	4.9	1.4	金属加工品	623	687	3.9	10.3
医薬品	320	644	4.9	101.3	発電用機械	761	545	3.1	△28.4
特殊産業用機械	504	554	4.2	9.9	事務用機器	522	501	2.8	△4.0
有機化学品	838	475	3.6	△43.3	金属加工機械	419	459	2.6	9.5
合計	13,951	13,175	100.0	△5.6	合計	17,704	17,839	100.0	0.8